



ハスミのダンスがおわかりました！ 8月23日(日) 新神戸オリエンタル劇場

さくら～春・夏・秋・冬 野に咲く花のように

構成・振付・演出 藤田佳代

出演 安田蓮美
寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 萩原陽子 平岡愛理 西田梨緒
菊原麻理奈 渡辺菜子 相原桃乃 西尾咲里 藤井花名 雲井瑞穂 松山美海 坂本のより
藤井佳子 内原光啓 中田欽也 木村桃子 七尾優佳 小野綾子

ハスミのダンスの緞帳が降りました。大きな拍手とともに。光の中でハスミちゃんは幕が降り切るまで頭を下げたままでした。大成功でした。
関係者のみなさま 本当にありがとうございました。 藤田佳代 教師一同

ハスミのダンスリサイタルを大盛況のうちに終え、3週間が過ぎようとしている今も嬉しい余韻に浸っている私はいまだに浸り切りから抜け切れず、この原稿を書きお世話になった皆様にお礼申し上げる事で思考回路を正常にという思いで書き始めています。

佳代先生、諸先生方、本当にありがとうございます。振り付け、それもお仕事とはいうものの見事に曲に合わせた踊りができるものだと感心するばかりです。先生の思う振付とは違う不利になってしまう蓮美をあの手この手で褒めたり直したり...できる良い面だけを表に出し同じ注意のくり返し、とにかく重複重複、根気の要る事です。

創作の舞台は佳代先生の思う振り付け通りに表現できなくても、踊る本人の有りつ丈の表現の仕方で見ている人の見方にお任せすれば良いのだという事も遅まきながら今回私は理解したわけです。本番当日までのご指導に全力投球して下さってありがとうございます。教室の舞台での(数ある舞台)1つでしかないハスミの舞台は我が家にとっては大イベントの1つです。それも無事終わったことは本当に感謝ばかりです。また、夏休みにもかかわらず、ちびちゃんのちびちゃん、お姉ちゃん、お父さんお母さん総出でお稽古に通って下さってありがとうございます。皆、お稽古以上に一生懸命踊ってくれて素晴らしい舞台になりました。ソロで踊って半分からジュニアの方、おちびちゃん、先生方の蝉、紅葉が出てくる場面が来るとホッと安心できました(母は心配症です)。裏話も失敗も多少(?)有るには有ったのですが総体的に大成功だったのでそれには触れないでおきましょう。

蓮美の舞台は先生方や多くの方のご助力なくしては実現不可能です。また、お越しいただくお客様が居てこそその舞台です。当日も大勢のお客様にお越しいただき本当に感謝です。今回同じ障害を持つ仲間やご父兄にとっても大きな勇気と希望をもらったという声や、激励の言葉をたくさん頂戴しました。心の力のお役にたてるということは本当に嬉しいです。

ただただ踊ることが大好きな蓮美ですが、感動も感激も幸せも蓮美がたくさんたくさん味あわせてくれました。私は幸せ。

皆様 本当にありがとうございました。 安田花仙(蓮美 保護者)

ハスミちゃんのリサイタルの成功をみんなが支えようという気持ちがよく伝わるともううれしい公演でした。照明、衣装、共演者、すべての人がいい舞台を創ろうとしている、その暖かさがよく伝わってきました。

ハスミちゃんは最初から最後まで途切れることなくこれだけの振りを踊り切った、本当にすごいことです。

ハスミちゃんは観るたびに上手になっていて驚かされます。前回のリサイタルと比べると格段のレベルの向上が見られました。ポーズが美しい、ポールドブラがとてきれいで、そして何より、共演者と呼吸を合わせて踊れるようになってきているのがすごい。もう一つハスミちゃんのすごいところは、人間本来の能力で踊っているところです。本能的に動くので軸がぶれません。ダンサーは自分から意識的に身体を引き上げようとすると、その一瞬の空白が身体をぶれさせるのですが、ハスミちゃんはそれを本能的に行っているのです。床をうまく使っていて、とても安定感がありました。 村山久美子談(舞踊評論家)

“ハスミのダンス”を見て

“ハスミのダンス”の練習風景から本番に至るまで見せていただきました。正直に言うと私はバレエについてよくわかりません。練習は娘の楽しそうに踊る顔や様子が見たくて座っていただけなので感想もピンとはずれになることをご容赦ください。

練習では夏と冬の一部しか見ていなかったのが本番での振り付けの多さに驚きました。よくあれだけの量を覚えられたなど。しかし場面が進むにつれて、ハスミちゃんにとってダンスとは生きるということと同じ意味をもっているのではないかと大袈裟でなく自然にそう思い始めました。覚えるという感覚ではなく生きているということの証明のような迫力が伝わってきました。もちろんご家族や先生方の御苦労は言い尽くせぬものがあるかとは思いますが、ダンス=人生だからこそ春や夏だけでなく憂いの秋や静寂の冬ですら生命の躍動がそこかしこに現れるのだと思います。

また、練習から本番を通して引き込まれたのはハスミちゃんのまなざしでした。どんな時も真っ直ぐで真剣な目。暑い中で何度も何度も繰り返された練習の時、カツラが吹っ飛んで一同が爆笑に包まれた時、本番で虫取り網の先っぽがとれてしまった時。いつでもハスミちゃんの目は澄んで真剣でした。私事で恐縮ですが四十を迎えてなおマラソンなど自分を追い込むことが私は大好きです。しかしよく練習のための練習に陥りがちです。ハスミちゃんの練習はいつでも本番でした。練習も本番もない、いつでも真剣勝負。個人的にすごく参考になりました。本当にありがとうございました。 雲井雄善(綾音 瑞帆 保護者)

「ハスミのダンス」の成功おめでとうございます。ハスミちゃんの舞台は、いつもながら観客が多く、改めてハスミちゃんは藤田佳代舞踊研究所の看板スターなんだと感じました。

5年前の「ハスミのダンス」では、長女の麻衣花が出演させていただいたのに続き、今回は次女の麻理奈が出演させていただきました。今回の妖精の役は、2年半前に西宮の兵庫県立芸術文化センターで開催された創作実験劇場での出演に続き2度目でしたが、その時は他の先輩ダンサーたちに引張ってもらっていました。しかし今回は、出演者の顔触れが大きく変わり、子供の出演者のなかで最年長ということもあり、先頭で虫取り網を持って走る妖精の役を担いました。

一番印象に残ったのは、不運なことに本番中にその虫取り網の網の部分が取れてしまったことです。なぜ、練習中でなく本番で取れたのかと観ていた私はすごく焦りましたが、ハスミちゃんも麻理奈も何事もなかったかのように踊ることができたのが素晴らしいと思います。その冷静な対応のおかげで、多くの観客は、あれがハプニングだとは気が付かなかったのではないのでしょうか。ああいう臨機応変な対応ができたのは今後の人生において大きなプラスになったと思います。

次回の「ハスミのダンス」の公演を楽しみにしています。

菊原敬(麻衣花 麻理奈 保護者)

今回の公演を盛況の中無事に終えられたことをお祝い申し上げますとともに、今回の公演に携わったさまざまの方々に厚くお礼申し上げます。この公演に当たっては、私の娘が火曜日クラスで佳代先生にお世話になっており、拙技ながら「ハスミのダンス」に出演させていただくことになりました。

当初、公演は私ども家族だけで 見に行くつもりだったのですが、練習に立ち会うにつれ、私ども以外の知り合いの方にもぜひ見ていただきたいと思い、きていただくことになりました。というのも、自分の娘が出ている公演にお誘いするのが、子供の授業参観にお付き合いしていただくようで、なんだか遠慮がちになっていたのですが、直向に練習している蓮美さんたちの輝いている姿を拝見しているうちに、四季の変化の中で蓮美さん扮する少年の姿がとても清くも美しく、また、幼いころのノスタルジーが感じられてほのぼのとした雰囲気にも包まれ、私自身がなんだかとっても癒され、この感覚はぜひ私の身近な人にも味わってもらいたいと思い、最初の遠慮はどこへやらで知り合いの方をお誘いしました。

佳代先生の指導の下、舞台上のスポットライトだけでなく、その人の人生にスポットライトがあびて輝く姿に、感銘を受け、また私自身多くのことに気づかせていただいていたいい機会になりました。これからもますますのご活躍をお祈りいたします。 松山元浩(美海 優海 保護者)

【ハスミのダンス】大成功おめでとうございます。

土曜日がお稽古日だった事もあり初めて娘のよりにつけてお稽古場にお邪魔しました。

週を重ねるごとに皆さん上手になっていき、のよりも出来なかった所は家でママに教えてもらいながら頑張っていました。そしていよいよ本番、不安はありましたが舞台上の娘は今まで一番素敵な笑顔と踊りを見せてくれたと思います。最後になりましたがこのような機会を与えて下さったハスミちゃん、先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。 坂本武士(のより まつり 保護者)

ワークショップご報告

平瀬信勝ワークショップ 3月26日 4月2日 本部スタジオ
参加者 寺井 金沢 菊本 かじ 向井 萩原陽子 梁河茜 平岡愛理 西田梨緒 谷岡亮
市田京美・トーマス デュシャトレワークショップ 6月29日 30日 7月6日 リハーサル室
参加者 菊本 かじ 向井
森優貴ワークショップ 7月29日 30日 31日 KAVC 参加者 西田 平岡 谷岡

7月29日から5日間、亮君・愛理ちゃんと森優貴さんのワークショップに行ってきました。5日目にはショウイングをしました。初日からすぐにショウイングの練習を始めました。コンテンポラリーだからモダンと似ていると思っていたら、いつもと違うので最初は戸惑いました。でも、次の日からは踊ることが楽しかったです。

ショウイングでは受講生のソロを一分ずつとポレロの曲の作品を踊りました。私のソロの曲は明るい曲で、「楽しい」「嬉しい」を表現する踊りです。このとき一番難しかったことが笑顔で踊ることです。自分では楽しく笑顔で踊っているのに森さんから見たらぜんぜん楽しそうじゃないといわれました...普段生活しているとき「楽しい」「嬉しい」「悲しい」など思ったことをいつも気をつけて覚えておかないといけません！そうすれば踊りでそのときの気持ちがだせると言われました。私はそんなこと考えたことがないのに気づかされました。これからは気をつけたいです。本番の日が一番楽しく踊れました。受講生のみんなとも仲良くなって、友達になりました！

ワークショップに行かせてもらって良い経験になりました。また機会があれば行きたいです。ありがとうございました。You tube 「yukiopaquevase」で検索したら、ポレロ少し見られるので良かったら見て下さい。 西田梨緒

7月29日-8月2日までの5日間、森優貴先生のワークショップに参加しました。1日目から最終日に行うショウイングの練習に入りました。振り付けは一人一人に森先生が曲を聞いて振り付けました。森先生が振り付けをするところを間近で見られたのは良い勉強になったと思います。また、コンテンポラリーとモダンと同じだと思っていたけど、実際に踊ってみると一つ一つの動きが流れるようで難しかったです。とにかく動くことで必死になっていたのが、私の曲はのんびりした曲だったので顔や体が緊張して「表現」の方をおろそかにしてしまっていたのが、私の欠点だと改めて感じさせられました。ショウイング本番ではとても緊張したけれど、終わってからは「楽しかった！」という気持ちがあふれてもう一度踊りたいなと思いました。

私はこの5日間で新しい踊りの知識を学べ、自分の悪いところや良いところもわかったし、ワークショップを通してクラシックバレエを習っている友達もできて踊りの視野を広げることができ、充実した日々を過ごすことができました。 平岡愛理

ワークショップやオープンクラスなどに参加する場合、階級に分かれているならば迷わずに初級を選ぶべし。何か新しい動きを習得したいのであれば、上級でもいい。でも、なぜこの先生はこう動くのか、この動きはそもそもどういう背景のもとで生まれてきたものなのか、そこは初級クラスで丁寧に説明を受けてこそ分かること...いろんなワークショップに参加させていただいた皆さんの先生に教えを受けたにもかかわらず、今まで私はこのことが分かっていたために、単に新しい動きを習得した(使わなければ忘れてしまった)だけで終わることが多かったように思います。その反省をこめて、なぜそう動くのか、動きが出てきた背景を考える。このことだけを考えて参加した二つのワークショップ。私自身に劇的な変化はなかったけれど、反対になぜ、(藤田佳代舞踊研究所の)モダンダンスはこういう体の使い方をするのかおぼろげにわかってきたように思いました。

平瀬先生のバレエのワークショップ。平瀬先生は「踊ること動くことには初心者ではないけれど、バレエの動きは日常で使わない人向け」といったスタンスで教えて下さったので、分かったことがありました。重心とその移動です。重心は真ん中でありながら、いえ真ん中であるからこそ前にも後ろにも軽く重心移動ができる、このこと。軽やかな動きが求められるバレエでは真ん中重心が不可欠な事なんだろうなと思い、同時に前重心が常になっている私はどうしても重心の移動に力が入りすぎ、「軽やかな動き」ができなかったのだと思いました。

市田先生とトーマス先生のワークショップ。二人の先生は、ピナ・パウシュのカンパニーで活動されていた方だったので、奇しくもワークショップ中、ピナ・パウシュが亡くなりました。偉大な舞台人。ピナ・パウシュのご冥福を心からお祈りいたします。

ピナもそうですが大御所と呼ばれるカンパニーのモダンダンスは、ダンサーの肉体の大きな存在感が作品の要素になっています。私はそう小柄ではないのですが、動いていても肉体の存在感が前に出ない、何が違うのかな、という疑問がずっとあり、今回のワークショップで何か掴めたらいいな、と思っていました。ワークショップでは、「春の祭典」をワンフレーズだけですが教えていただきました。著作権に厳しいピナが、ワークショップに「春の祭典」の一部を教えることを許可した...ことはすごいことだそう。ほんの一部分ですが、なんとモダン(大らかに見えなければならぬ)動きで、全編通して踊りたいなと思いました。でも結局私は分らなかったのです。なぜ私の踊り方は肉体の存在感が前面に出せないのか。動きが間違っはいいなかったと思いますし、体の使い方もある程度は共通部分が多いから、ここが違う、という決定的な事がない、ただ、私はピナの「春の祭典」を踊るためのダンサーではない、ということだけが分かりました。結局は精神的な事や歴史的背景なんていう領域になっていくのかな、と、それでは私は私自身のこの踊り方、動き方を大事にしていくしかないな、などという結論になりました(自分が至っていないなどという考えには決してならない)。

今の私の踊り方動き方は、佳代先生や仲間や自分自身の作品を踊っていく中で創りあげられたもの。あまり軽やかさが求められることも、肉体の存在感を求められることもなかったな、と思います。でも、ダンサーとしては、軽やかに動いて、肉体の存在感を前面に押し出すこともできて、ということがプラスされたらいいな、と今さらこの年ですが思うのでした。 菊本千永

7月から続いた舞台の大波も一段落。いよいよ発表会(10月12日。西大和教室の発表会が11月29日)と藤田佳代作品展(11月3日)です。発表会に向けて子どもたちは大いにはりきっていますし、作品展のリハーサルも7月から始まっています。佳代先生の最後のリサイタルです。みなさんどうぞ足をお運びください。私たちもがんばります。 責任編集 菊本千永